



自転車の通行環境整備

～自転車が安全に走行できる道路交通を目指して～

自転車は、幼児から高齢者まで幅広い層が利用する身近な交通手段であり、特に東日本大震災による交通の混乱等を機に、通勤手段等として注目を集め、その利用の進展が見込まれています。

自転車の通行環境の整備に当たっては、自転車利用者が交通事故の被害者になることはもちろん、加害者となることを防止することを基本として、道路管理者と連携し、

○ 車道上における自転車通行に危険がある箇所

○ 歩道上における自転車と歩行者が輻輳する箇所

等の危険性の高い箇所の整備を優先するとともに、あらゆる交通利用者の視点に立ち安全で快適に通行できるよう配慮して整備しております。

自転車の安全・快適な通行を確保し、事故防止を図るために、自動車、自転車及び歩行者の走行（歩行）空間を区分する取組みを行っています。



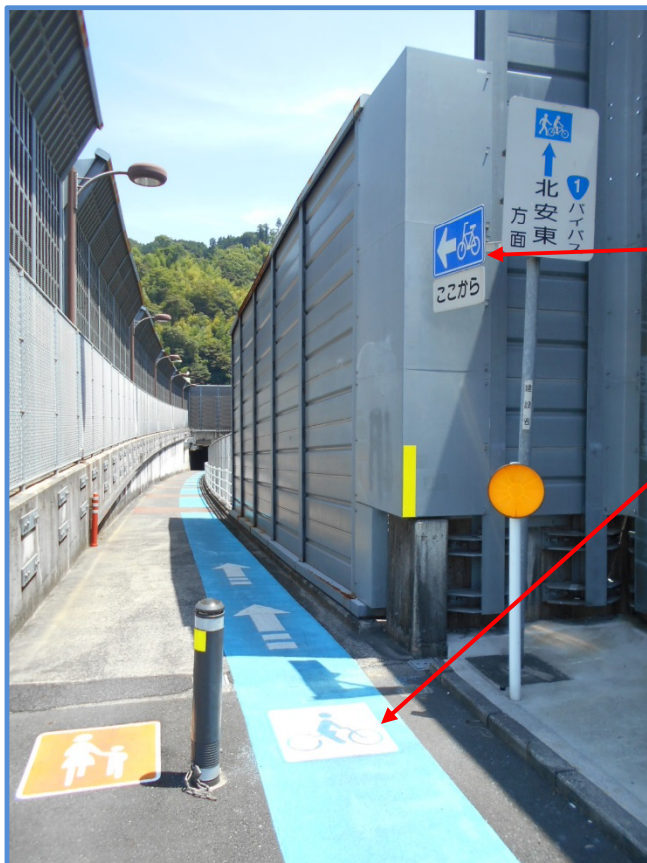
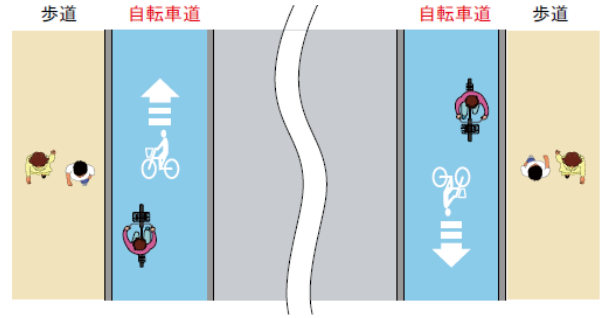
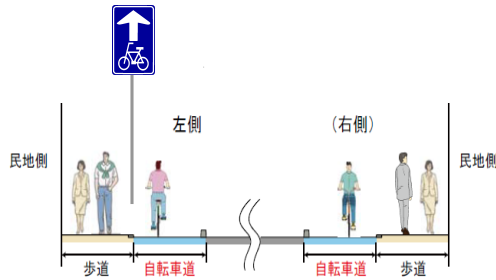
【整備例】

自転車一方通行



自転車道を一方通行規制することにより、自転車同士
のすれ違い時などの交通事故防止を図る。

(道路交通法第8条第1項)



☆ 自転車を一方通行にすることにより、自転車
同士の間隔を回避

☆ 自転車が走行すべき部分をカラー舗装し
た上で、矢印を設置することにより、視覚的
に歩行者と分離

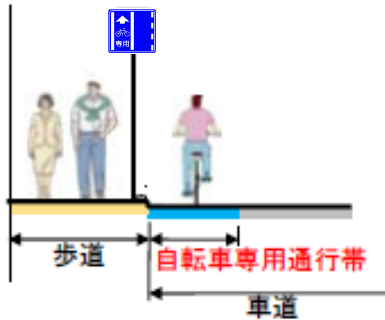
出口には、進入禁止の標識を設置



【整備例】 普通自転車専用通行帯（自転車レーン）



自転車と他の車両を分離し、車道上に自転車が専用で通行できる走行空間を確保することにより、交通事故防止を図る。（道路交通法第20条第2項）



☆ 路肩部分を広げ、自転車が走行できる空間を確保

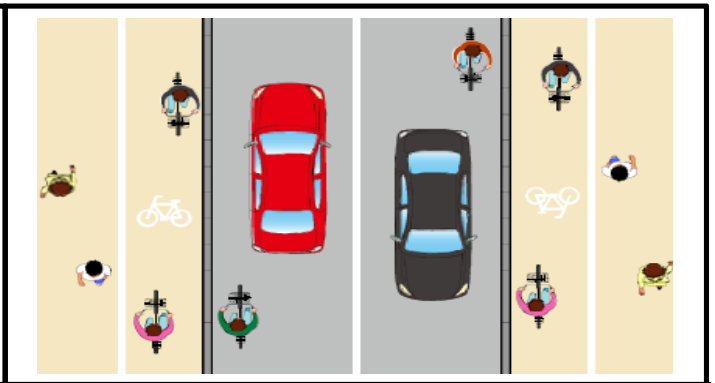
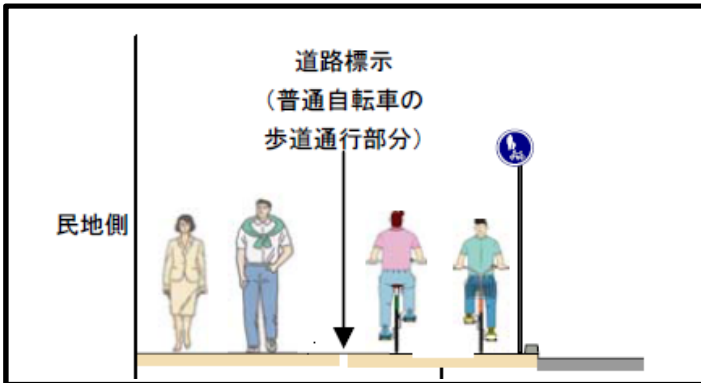
- ☆ 青色に着色して視覚的に自転車とその他の車両を分離
- ☆ 矢羽根型の路面表示とピクトグラムを設置



【整備例】 普通自転車の歩道通行部分



歩道幅員が広く、歩行者の通行に支障がない歩道上に自転車が通行できる走行空間を確保することにより、交通事故防止を図る。(道路交通法第63条の4第2項)



自転車の走行部分

歩行者の通行部分



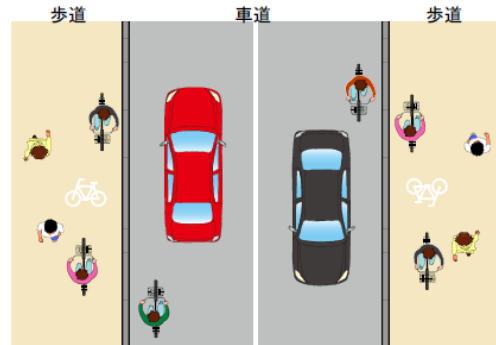
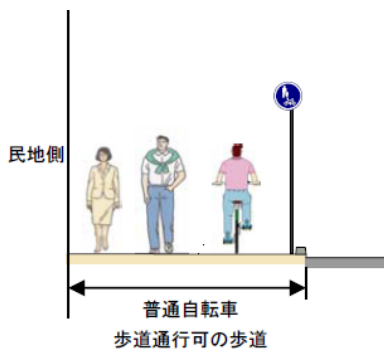
☆ 青色に着色して視覚的に自転車の走行部分と歩行者の通行部分を分離



【整備例】 普通自転車の歩道通行可



歩道幅員が比較的広く、歩行者の通行に支障がない歩道上に自転車が通行できる走行空間を確保することにより、交通事故防止を図る。(道路交通法第63条の4第1項)。※歩道の通行部分を指定するまで歩道幅員がない場合に指定



【注意喚起サイン】

・安全性を向上させるために、注意喚起サインを設置。



◇注意喚起サイン



自転車・歩行者を適切に通行区分するため、啓発サインを設置

